

江木衷 諱、辯護士、漢詩人、法學博士。安政五年九月十九日周防國
 岩國城外御庄村生れ、大正十四年四月八日歿（一八五八—一九二五）。號冷灰、
 待我歸軒、空林庵。江木千之の弟。初の南方一校の塾、漢學を修め、
 明治七年上京。英語學校を経て大學豫備門に入學。卒業後警視廳、司
 法省、農商務省、外務省、内務省に勤務。二十六年官を辭して辯護士
 とはり、翌年まゝ終始。この間英吉利法律學校を創設。東京辯護士會
 會長。妻榮子と欣々と號し漢詩に長じ、社交界の花形として知られて
 るだが、昭和五年自殺。

著書に『現行刑法原論』全三冊（明治二十五年九月一日自刊、東京法
 學院）、『民事訴訟法原論』（明治二十六年一月二十一日有斐閣書房）、
 『普選と労働階級』（大正十四年一月十三日冷灰論文集刊行會）、『冷
 灰遺稿』（大正十五年二月十五日江木榮子編刊）等。『江木冷灰先生
 追憶譚』（大正十四年七月八日末繁彌太郎編刊）がある。

